

広島から学んだこと

中畦 心桜

今回の広島市平和記念式典児童派遣事業にあたり、私は事前に家族と靖国神社を訪れ、私なりに戦争や平和について考え、派遣事業に参加しました。

事業をとおして心に残ったことが二つあります。一つ目は、平和記念資料館です。資料館には原爆が落とされた後の広島の写真がたくさん展示されていました。母子が抱き

合いながら、黒こげになった写真。あたり一面が焼け野原になった町並み。黒い雨。あまりにも痛々しい写真ばかりで、見ているのが辛く、目を背けたい気持ちになりました。私は派遣前の決団式で、生きたくても生きられなかった人達の気持ちを知りたい。と言いました。でも実際に資料館を見て感じたことは、原爆は「一瞬で多くの町と人を焼きつくしてしまふ」というものでした。生きたいと考える時間さえ、そこにはありません。原

爆後いしうで、今も苦しんでいる人がいる
ことも初めて知りました。

二つ目は、平和記念式典に参列したこと
です。私はこれまで、広島と長崎で毎年行われ
ている平和記念式典や、8月15日の終戦記念
日をニュースで見るだけで、というものがな
のか、正直わかりませんでした。式典では、
8月6日、8時15分、原爆が投下された時間
に合わせ、黙とうをしました。一瞬で焼きつ
くされた広島市の町と14万人の命。私は72年前

に起きた原爆の悲しみを、絶対に忘れないと
誓いました。また、平和への誓いでは、広島
市内の、私と同じ6年生が、人々があきら
めてしまっていたら、復興への強い思いや願
いを捨てていたら、苦しい中、必死で生きて
きた人々がいなければ、今の広島はありませ
ん。と発表していました。私も同じ思いです。
私達が今、当たり前のように平和に暮らせて
いるのは、戦争によって、多くの悲しみがあ
って、あきらめなかった人達のおかげだと思

います。今を平和だと思えるのは、平和じゃ
なかっただ昔があるおかげだと思っています。

終戦から72年。私達は今、平和の大切さに
ついて考える機会が~~多~~くありません。このま
までは平和のバトンが途切れちゃいます。
私は今回、派遣事業で感じたことや学んだこ
とを、学校の友達や弟に、たくさん話し、平
和について語り合いたいと思います。それが
平和をつなぐバトンリレーの第一歩だと思っ
から。